

動画配信

5

駿河湾沼津 SA の価値創造に関する情報学的研究 ドッグラン施設のマナーアップ戦略を中心に ～課題解決型学習を通した学生の学びに注目して～

事業担当者

【指導教員】経営学部 経営学科： 山田雅敏 准教授、小豆川裕子 教授

【参加学生】堀池稜人・井上侑星（プロジェクトリーダー）と他ゼミ生 31 名、計 33 名

目的・概要

本研究は、中日本高速道路株式会社（以下「NEXCO 中日本」）と共同で、駿河湾沼津サービスエリア内にあるドッグラン施設の現況調査とマナーアップキャンペーンを通して、同施設の付加価値を向上することを目的とした。NEXCO 中日本との共同研究の協力体制として、中日本エクシス株式会社の支援にくわえて、県内の企業やアドバイザーとの産学連携を目指した。対する大学生は「アンケート調査班」「ペーパータオル制作班」「動画制作班」の 3 つのグループに分かれ、それぞれ課題解決型の活動を行った。



駿河湾沼津 SA 内の
ドッグラン施設

事業成果

2022 年 10 月にドッグラン施設におけるマナーアップキャンペーンを実施し、さらにマナーアップを促進するためのオリジナルペーパータオルの配布やショート動画が配信されたことから、同施設の付加価値の向上に寄与したことが示唆された。今後の課題として、継続したマナーアップ向上の活動が求められる。また、本プロジェクトの課題解決学習の教育的効果を把握するために、参加学生に対してアンケート調査を実施した結果、約 9 割の学生が活動を通して学ぶことが多かったと回答した。また、学生のリフレクションを共起ネットワークにより視覚化した結果、本活動が大学生の学びや経験に関連していることが示唆されるなど教育的効果が認められた。一方で、限られた授業回数の中、情報共有が上手くいかない場合があるなど学生間のコミュニケーションが課題であったことが明らかとなった。今後は学生同士の円滑なコミュニケーションを図るための工夫が必要であると考えられる。



学生による打ち合わせの風景
(常葉大学 静岡草薙 C)



ドッグラン施設の現況調査
(駿河湾沼津 SA)



マナーアップキャンペーン
(駿河湾沼津 SA)